

P10に登場!

Let's go to
the World



建設工学専攻
修士課程1年(タキシコ出身)
ガリシア・ガルシア・ダビッド

特集

セカイへ GO!!



page 02

本学の国際交流

page 04

海外実務訓練

page 06

短期留学

page 08

国際会議・学会・研究発表

page 10

ツイニングプログラム

page 13

シリーズ
全国高専めぐり

沼津工業高等専門学校



page 14

GIネット(三機関連携)

page 15

私の抱負／本学の動き

page 16

課外活動紹介 キンボールサークル/
StreetStyle

page 18

学生の活躍 しゅがく「朱陣2014」/
ロボコンプロジェクト

page 19

岡田先生を
偲んで

page 20

オープン
キャンパス/
編集後記



TAKE
FREE

お持ち帰り自由!

¥0

セカイへGO!!

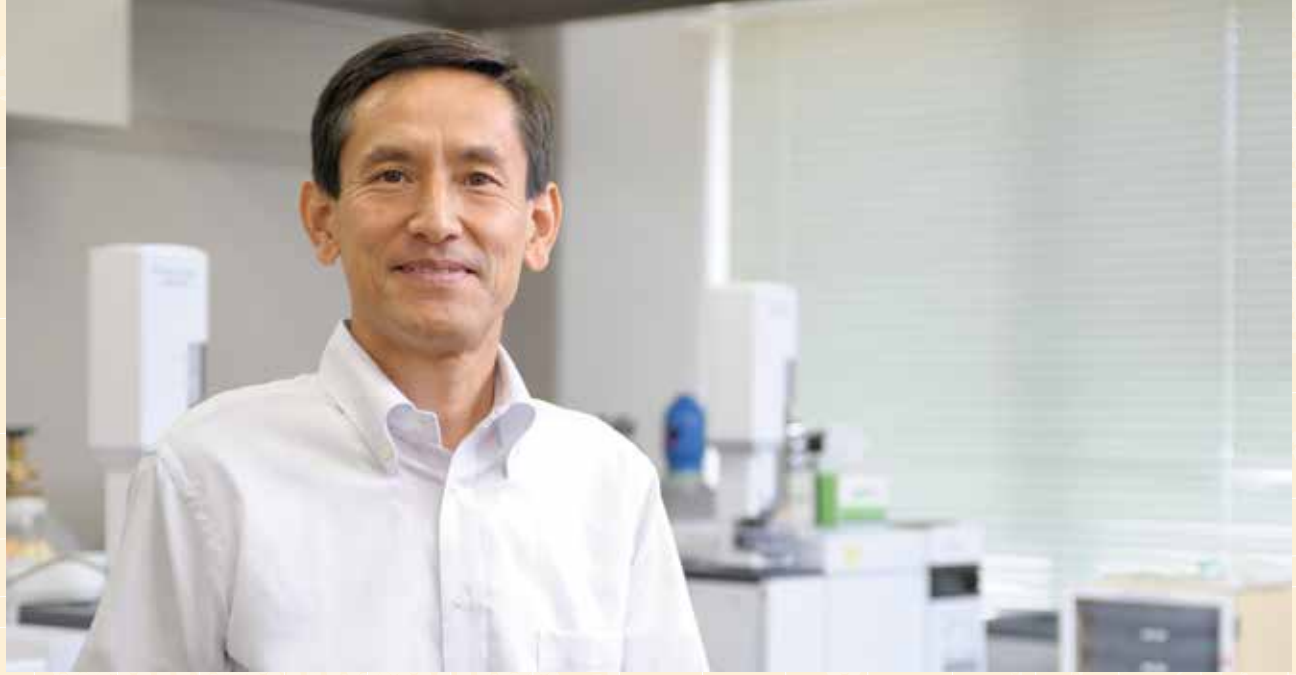
Let's Go to the World!!



セカイへGO!!

長岡が国際都市だ、と思う人はあまり多くは無いでしょう。しかし長岡技術科学大学は日本国内に小さく縮こまった大学ではありません。ツイニング・プログラムにより毎年一定数の留学生が世界の各地からやってきているし、日本人学生も、全学生が在学期間中に一度は海外で活動する(海外実務訓練、短期留学、国際学会など)という体制ができています。これからは在学中にパスポートを取得して海外に飛び立つ学生が当たり前になるでしょう。

Kazunori Sato



本学の国際交流によるグローバル人材育成

国際連携センター長
環境・建設系教授

佐藤 一則

現代では、国や地域の枠を越えた社会的、文化的、経済的活動が急速に拡大しています。このような情勢のなかで、我が国の経済・産業活動のグローバル化を推進する国内人材の確保・育成は大きな課題となっています(経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月)より)。一方で、将来にグローバル人材としての活躍が期待される日本の若者の海外志向は年々低下傾向にあり、大学等における海外留学者数の減少(2004年から2010年で約30%減)や新入社員の海外就労・勤務に対する受容性低下となって表れています。

これに対して、本学では、国際的に通用する指導的技術者・研究者の養成を目的

とするユニークな教育プログラムを他大学に先がけて提供してきました。その一つとして、本学大学院進学予定者が学部第4学年後期に約5ヶ月間、海外の企業等で実習を行う実務訓練(長期海外インターンシップ)制度があります。このプログラムでは、平成2年度に学生2名を初めて海外へ派遣して以来、最近では毎年約50名が海外で実務訓練を行っています。本年度は58名の派遣を予定しており、延べ人数では655名に達します。このようなグローバル化対応の実践的キャリア教育を実施している大学は極めて珍しい存在です。さらに本学では、国際的に活躍できるグローバル人材育成のために、大学院を主体とする日本人学生への積極的な

海外留学・国際会議発表等の支援とともに外国人留学生受入れのための特徴的な教育プログラム(ツイニング・プログラムほか)提供も行っています。

本学は、グローバル人材育成を推進する組織的な教育研究体制を整備するために、平成23年4月に国際連携センターを設置しました。国際連携センターは、本学における海外学術機関との教育研究交流の促進並びに外国人留学生の教育指導及び学生の国際交流推進等を行い、本学の教育研究の国際的連携推進に努めています。本特集で紹介する国際教育プログラム内容や国際交流事例を通じて、本学の国際交流の実績や取組みに関して皆様にご理解を深めて頂けたら幸いです。

海外実務訓練

海外への実務訓練生内訳

平成23年度			(順不同)
タイ	コンケン大学	1名	
マレーシア	Advantest Engineering Sdn.Bhd.	2名	
	Fujipoly Malaysia Sdn.Bhd.	2名	
	Fujitsu Component(Malaysia)Sdn.Bhd.	2名	
	マラ教育財団	8名	
	マラ工科大学 (UITM)	1名	
メキシコ	グアナファト大学	1名	
	モンテレー大学	2名	
ベトナム	ハノイ工科大学	2名	
	Vietnam Nippon Seiki Co.,Ltd.	1名	
アメリカ	ピッツバーグ大学	1名	
	オーストラリア原子力科学技術機構	1名	
シンガポール	メイデンシンガポール	1名	
	Experimental Therapeutics Center(ETC)	2名	
インド	インド国立インデラガンジー原子力研究所	2名	
	鄭州大学	3名	
中国	華南理工大	2名	
	鄭州大学	3名	
台湾	国立成功大学	1名	
	Kaya AMA	1名	
ドイツ	Freudenberg	1名	
	Sony Deutschland GmbH	4名	
英国	プリストル大学	1名	
		13カ国 27機関	42名

平成24年度			(順不同)
アメリカ	ジョージア大学複合糖質研究センター	1名	
	プリストル大学	2名	
イギリス	ヨーク日本電子ナノセンター	1名	
	国立インデラガンジー原子力研究所	2名	
インド	Surya 教育大学	2名	
	オーストラリア原子力科学技術機構	1名	
インドネシア	Experimental Therapeutics Center(ETC)	1名	
	Institute of Materials Research and Engineering	1名	
オーストラリア	National University of Singapore (NUS)	2名	
	カタルニア工科大学	4名	
シンガポール	MTEC(National Metal and Materials Technology Center)	2名	
	NIDEC COPAL Thailand	2名	
スペイン	Vonbundit Co.,Ltd.	2名	
	アジア工科大学	1名	
タイ	Freudenberg	1名	
	ミシュコルツ大学	1名	
ドイツ	UNIVERSITE PARIS-EST CRETEIL(UPEC)	2名	
	ダナン大学	1名	
フランス	ハノイ工科大学	3名	
	Advantest Engineering Malaysia	2名	
ベトナム	Rehon Industries Sdn.Bhd.	2名	
	富士通コンポーネント	2名	
マレーシア	グアナファト大学化学学科	2名	
	モンテレイ大学	2名	
メキシコ	韓国産業科学研究所 (KITECH)	3名	
	韓国産業科学研究所 (KITECH)	3名	
韓国	韓国産業科学研究所 (KITECH)	3名	
	ADVANTEST(M)Sdn.Bhd.	1名	
台湾	河海大学	2名	
	鄭州大学	3名	
		17カ国 28機関	51名

平成25年度			(順不同)
アメリカ	Instec, Inc.	1名	
	マイアミ大学	1名	
イギリス	ヨーク日本電子ナノセンター	1名	
	NJS Engineers India Pvt.Ltd.	1名	
インド	国立インデラガンジー原子力研究所	2名	
	Surya 教育大学 / PT.Yokogawa Indonesia	2名	
インドネシア	オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)	1名	
	韓国産業科学研究所 (KITECH)	3名	
オーストラリア	Experimental Therapeutics Center(ETC)	2名	
	カタルニア工科大学	4名	
シンガポール	Toray Industries(Thailand)Co.,Ltd.	2名	
	NIDEC COPAL	2名	
スペイン	MTEC(National Metal and Materials Technology Center)	2名	
	アジア工科大学	2名	
タイ	コンケン大学	1名	
	Hino Motors Manufacturing	2名	
台湾	国立成功大学	1名	
	Freudenberg	1名	
ドイツ	Universite Paris-Est Creteil(UPEC)	2名	
	メルセン株式会社	1名	
フランス	ハノイ工科大学	3名	
	HoChiMinh City University of Technology	1名	
ベトナム	富士通コンポーネント	2名	
	Universiti Teknologi MARA(UTM: マラ工科大学)	2名	
マレーシア	ADVANTEST(M)Sdn.Bhd.	1名	
	グアナファト大学	4名	
メキシコ	モンテレイ大学	1名	
	モンテレイ大学	1名	
		15カ国 27機関	48名

短期留学

グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム

留学生交流支援制度(ショートステイ、ショートビジット)交流校一覧

平成23年度		
6名 (うち外国人留学生 3名 [平成 23 年度は、特別に 外国人留学生で希望する 者も対象とした。])	イギリス・ヨーク大学材料研究所 (学術交流協定締結大学)	
	スペイン・カタルニア工科大学 (学術交流協定締結大学)	
	カナダ・マニトバ大学 (学術交流協定締結大学)	
	ドイツ・ダルムシュタット工科大学 (学術交流協定締結大学)	
	オーストラリア・RMIT University	
平成24年度	イスラエル・テルアビブ大学	
	スペイン・カタルニア工科大学 (学術交流協定締結大学)	
	タイ・タマサート大学 (学術交流協定締結大学)	
	カナダ・マニトバ大学 (学術交流協定締結大学)	
	ベトナム・ハノイ工科大学 (学術交流協定締結大学)	
平成25年度	アメリカ・カリフォルニア工科大学	
	ドイツ・Max Planck Institute for Marine Microbiology	
	オーストラリア・RMIT University	
	アメリカ・ワシントン大学	
	オーストラリア・オーストラリア原子力科学技術機構 (学術交流協定締結機関)	
4名	イギリス・ヨーク大学材料研究所 (学術交流協定締結大学)	
	ベトナム・ホーチミン市工科大学 (学術交流協定締結大学)	

平成23年度		
受入・派遣期間：平成 23 年 9 月 12 日～平成 24 年 3 月 31 日 (上記期間内の 90 日以内)		
派遣(SV)	マラヤ大学 (マレーシア)	4名
	セインズマレーシア大学 (マレーシア)	3名
	グアナファト大学 (メキシコ)	2名
	テキサス大学エルバソ校 (アメリカ)	1名
	合計	10名
受入(SS)	マラヤ大学 (マレーシア)	2名
	セインズマレーシア大学 (マレーシア)	2名
	グアナファト大学 (メキシコ)	3名
	チュラロンコン大学 (タイ)	1名
	タマサート大学 (タイ)	1名
合計	バトムン工科大学 (タイ)	1名
	マヒドン大学 (タイ)	1名
	ラジャマンガラ工科大学 (タイ)	1名
	タイ商工大学 (タイ)	1名
	コンケン大学 (タイ)	1名
19名	泰日工業大学 (タイ)	1名
	テキサス大学エルバソ校 (アメリカ)	1名
	シモンボリバル大学 (ベネズエラ)	3名
	合計	19名

平成24年度		
受入・派遣期間：平成 24 年 9 月 1 日～平成 24 年 12 月 24 日 (上記期間内の 90 日以内)		
派遣(SV)	マラヤ大学 (マレーシア)	3名
	タマサート大学 (タイ)	1名
	マヒドン大学 (タイ)	1名
	国立台湾科技大学 (台湾)	1名
	グアナファト大学 (メキシコ)	2名
合計	ダルムシュタット工科大学 (ドイツ)	1名
	ミシュコルツ大学 (ハンガリー)	2名
	合計	11名
受入(SS)	テキサス大学エルバソ校 (アメリカ)	1名
	マラヤ大学 (マレーシア)	3名
	セインズマレーシア大学 (マレーシア)	2名
	泰日工業大学 (タイ)	1名
	チュラロンコン大学 (タイ)	2名
合計	ラジャマンガラ工科大学 (タイ)	1名
	国立台湾科技大学 (台湾)	1名
	グアナファト大学 (メキシコ)	1名
	ミチヨアカナ大学 (メキシコ)	1名
	シモンボリバル大学 (ベネズエラ)	1名
		合計 13名

ツイニング(留学生)プログラム

ツイニング・プログラム編入学生数(過去3年実績)

平成23年度				平成24年度				平成25年度			
ハノイ工科大学	(H24.4)	(H25.4)	(H26.4)	ホーチミン市工科大学	(H24.4)	(H25.4)	(H26.4)	ダナン大学	(H24.4)	(H25.4)	(H26.4)
	2名	2名	1名		4名	11名	7名		2名	1名	4名
	H26.4.1 現在				H26.4.1 現在				H26.4.1 現在		
鄭州大学 (9月入学)	(H24.9)	(H25.9)	(H26.9)	ヌエボレオン大学	(H24.4)	(H25.4)	(H26.4)	モンテレイ大学	(H24.4)	(H25.4)	(H26.4)
	8名	6名	6名		4名	3名	2名		3名	0名	4名
	H26.9.1 現在				H26.4.1 現在				H26.4.1 現在		
マレーシア	(H24.4)	(H25.4)	(H26.4)								
	5名	3名	3名								
	H26.4.1 現在										

LET'S GO TO THE WORLD!!



Taku Sakka



インド・チェンナイ及びカルパッカムでの実務訓練を通して

原子カシステム安全工学専攻
修士課程 1 年（香川高専出身）

作花 拓

私は発展途上国の“今”を見たいと思い、インドでの実務訓練に参加しました。

最初の2か月半はチェンナイにあるインド工科大学マドラス校(IITM)で研究を行いました。また、授業にも参加させてもらい、学生の意識の高さを感じました。ここでは、多くの友人を得ると共にインドの文化を学ぶこともできました。

残りの3か月間はカルパッカムにあるインディラガンジー原子力研究所(IGCAR)で研究を行いました。現地の人たちと働くことは新鮮ではありましたが、やはり日本との仕事のスタイルの違いやコミュニケーションの問題から苦労することも多々ありました。仕事の効率に関しては国民性の違いを感じ、その点では日本の企業での実務訓練がうらやましくもありました。

休日には学校のイベントに参加した

り、寺・遺跡巡り、ヨガや映画鑑賞など充実したインド生活を送ることができました。

初めは環境や食事、言語の違いから生きていけるのだろうかと思いましたが、様々な経験をし、心身ともに成長することができました。また、あらためて日本のことを知る機会にもなり、新たな価値観も得ることができました。この経験を活かすためにも、今後も新しいことに挑戦して視野を広げ、国際的な場で活躍できるようになればと思います。



インドのとある風景

シンガポールでの実務訓練

生物機能工学専攻
修士課程 1 年（沼津高専出身）

高橋 映莉乃

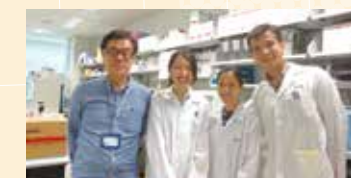
私は、シンガポールのExperimental Therapeutic Centerで4ヶ月間、感染症の検出技術の開発に携わりました。英語力を高めたい、海外の最先端技術を学びたいと考え、海外実務訓練を希望しました。

シンガポールに行く前は、英語圏で4ヶ月生活すれば自然に流暢に英語が話せるだろうと安直に考えていましたが、実際には英語での意思の疎通に非常に苦労しました。実験に関する細部まで正確な理解が必要な場面で、自分の英語力不足を実感し、とても悔しかったです。そして「もっと英語を話せるようになって、自分の研究を多くの人に伝えたい。もっと知識を身につけたい。」と強く思いました。その後はコミュニケーションの手段を身につけるという意識で英語力の強化に取り組みました。

研究所の方々に助けられながら経験を重ね、最終的には英語で研究結果の報告をすることができました。

また、シンガポールの方々との交流を通じて、言語や文化、宗教の多様性を体感し、今までよりも物事を広い視野で捉えられるようになりました。海外実務訓練で学んだことは私にとって非常に大きな財産です。

支えてくださった皆様に感謝し、世界中の人々に貢献できる研究者を志して、今後も邁進していきたいと思います。



お世話になったラボの皆さん

Erino Takahashi



インドネシア・ジャカルタでの実務訓練を終えて

経営情報システム工学専攻
修士課程 1 年（舞鶴高専出身）

中村 吉成

小さい頃からの心配性で内向的な性格を変えたいと思い、約5ヶ月間の長期に渡る海外実務訓練に参加しました。実務内容はSurya教育大学、横河電気インドネシア支社にお世話になり、Moodle(オープンソースのe-learningプラットフォーム)を利用した研修用e-learningシステムの構築です。

大学では日本文化クラブの方に日本語を教え、横河では新入社員の方々と一緒に研修を受けたのですが、自身の研究分野とは異なる業務、日本とは違う生活スタイル、英語での会話などの慣れない環境に「早く日本に帰りたい」と思う日もありました。しかし、その度に友達や新入社員の方が食事や遊びに誘ってくれ、時が経つにつれ不安や心配が無くなっていったのを覚えています。社員の方や友達など多くの人の力を借りてe-learningシステムを構築す

ることができました。

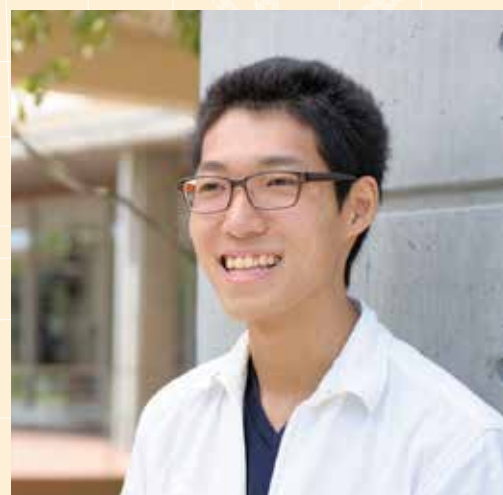
実務訓練を通じて「話さなくてもわかってくれる」という考えは甘えであり、自分の気持ち・考えを伝える形で相手に伝えるという自己主張の大切さを学ぶことが出来ました。この経験は今の自分にも生きているように感じます。

海外実務訓練は日本には絶対には得られない文化の違い、苦労を超えた素晴らしいものを得ることが出来ます。自分の世界を広げられる絶好の機会、是非チャレンジしてみてください。

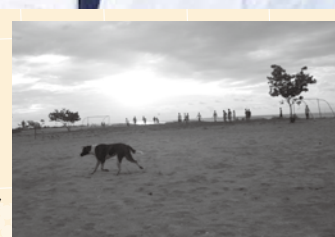


新入社員の方たちと一枚

Yoshinari Nakamura



バリ島旅行_クタビーチにて一枚



Hiroki Matsumoto



アメリカ・ボウルダーでの海外実務訓練で得たもの

電気電子情報工学専攻
修士課程 1 年（長岡高専出身）

松本 紘希

私が長岡技大への進学を決めた理由の1つが長期実務訓練でした。編入学当初は「機会があれば海外に行ってみよう」という程度に考えていました。アメリカの企業での実務訓練が決まった時は、貴重な経験が積めると同時に、英語力向上の最大のチャンスだと思いました。

渡米してみると、ルームメイトの現地大学生とすぐに打ち解け、満足な英語を話せない私に、日々生きた英語を教えてくださいました。お礼に日本語を教える時もありました。

企業での業務では、初めは専門用語や日常では聞く機会のない単語に毎日のように直面し、猛勉強の日々でした。疑問は理解するまで聞く姿勢を持ち続けた結果、自分の意見もしっかり伝えられるようにもなりました。「学ぶ姿勢」は

とても大切で、それは言葉も国も関係ないと感じました。

英語でのコミュニケーションは最大の壁でしたが、それは逆に自分の考えを伝えたいという気持ちを生み、英語をもっと学びたいという原動力になっていたと思います。アメリカでの実務訓練は多くの温かい人に恵まれ、自分を成長させるとも良い機会でした。国内実務訓練でも多くのことを学べるのは勿論ですが、海外に飛び出すのも自分を磨く最高のチャンスだと思います。



Pearl Street



Masatoshi Ito



シアトルコーヒーを片手に



エネルギー・環境工学専攻
博士後期課程 2 年（秋田高専出身）

伊藤 雅利

小雨と桜の舞うシアトルの初春。「グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム」を利用し、私は2014年3月にアメリカのワシントン大学で1ヶ月間の研究をしてきました。実際の研究とは1ヶ月で実を結ぶような難しいものではありませんが、この制度は次の3点において有意と言えるものでした。

1点目は、自分の研究分野やその周辺の国際的なニーズを、国際色豊かな視点から俯瞰できたということです。私がワシントン大学を選んだのもこの理由に依ります。私の居たラボは北米・南米・アジア諸国の出身者が占めており、名物のシアトルコーヒーを片手に、研究・文化的な面で非常に興味深い交流ができました。2点目は、大学や学会の外で新たな人脈をつくれたことです。私のアメリカに対する漠然とした憧れや偏見も消え、最新の研究環境を肌で感じ、様々な国

の学生・研究者とのつながりを築けたのは大きな進歩でした。最後の3点目は、この海外での研究活動が自分の研究や人生設計を阻害しなかったことです。多くの場合、留学は自分の本来の学業や研究時間を削ってしまいがちですが、「1ヶ月間」はこの点を心配せずにすむように良い期間と言えます。

日本という国の立ち位置や特異性を外から認識するために、本学の制度は非常に価値のあるものと成り得るでしょう。



ワシントン大学図書館にて

カナダでの リサーチインターンシップ



エネルギー・環境工学専攻
博士後期課程 2 年（沖縄高専出身）

仲宗根 一樹

「異分野チーム編成融合型グローバルリーダー養成コース」のリサーチインターンシッププログラムにて、カナダ・トロント大学へ2013年10月から約4ヶ月間滞在する機会を頂き、薬を内包する高分子マイクロカプセルの研究を行いました。私がカナダを派遣先に選んだのは、研究者として必須である英語能力向上のため、英語圏の国で勉強したいという思いが強かったからです。

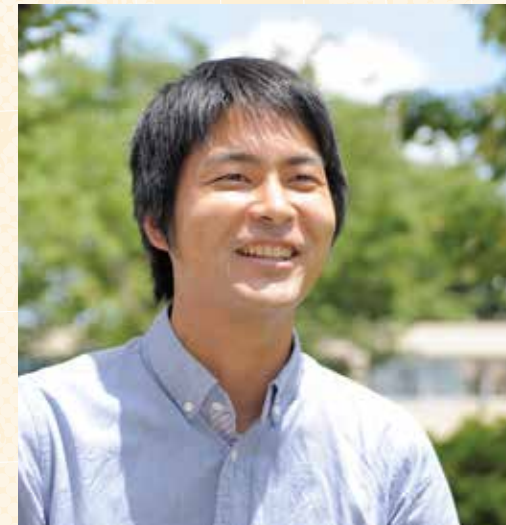
始めは、特に自分の意見や考えを瞬発的に表現することが難しかったものの、教授や学生などと議論を重ねることで徐々に上達していくのを感じました。移民の多いトロントでは多種多様な国をルーツに持つ人々と会う機会も多く、異なる考え方や触れ合えるのも魅力です。また、実験で使用する試薬は薬品会社に直接電話で注文しなければならず、対面で話すのとは違い相手が何を言っているのか混乱するこ

ともありました。しかしながら、このような日常の問題をいくつも乗り越えることが自らの成長に繋るのだと思います。休日にはナイアガラ滝に三回も遊びに行き、カナダの大自然を満喫しました。今回のインターンシップでは研究・語学面のみならず、人間として成長でき、将来に活かすことのできる有意義な経験を得ました。



ナイアガラ滝にて

Kazuki Nakasone



作製したマイクロカプセルの光学顕微鏡写真

オーストラリアでの 短期滞在中を通して



エネルギー・環境工学専攻
博士後期課程 3 年（小山高専出身）

青葉 知弥

本学の「グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム」により、2014年2月から約一ヶ月間、オーストラリア原子力科学技術機構にて研究活動を行ってきました。現在、日本国内では中性子回折を行うことが出来る施設はなく、この派遣プログラムを利用して測定を行いました。また、結晶構造解析の専門家のもとで、評価ならびに解析手法を学ぶことができました。

言語の障壁はありますが、オーストラリアの皆さんの温かな人柄の助けもあり滞在期間中の生活や実験に関して大きな問題が生じることはありませんでした。しかしながら、研究内容の詳細や生活面の細かなことを伝えるには自分の語学力や一般的知識の不足を感じずにはいられませんでした。相手の理解力に頼った曖昧な話し方をするのは容易ですが、自分の

主張がダイレクトに伝わるように明快な論理で話す訓練をする必要があると感じました。

大学外の研究施設を体験することで、博士課程の研究活動に大きな広がりを感じました。オーストラリア原子力科学技術機構との連携は今後も継続して、研究を進めていく予定です。今回の短期滞在中によって研究が進展し、貴重な海外での研究活動の経験を積むことができました。



実験装置の前で



Tomoya Aoba

受け入れてくれた
ホストファミリーとの
写真



BATUMENGKE



ドイツでのインターンシップを終えて 「安全パラダイム指向コース」



情報・制御工学専攻
博士後期課程 3 年（中国出身）

バトモンク 巴圖孟克

本学の「安全パラダイム指向コース」に所属して、システム安全や制御システムなどの最先端技術の知識・研究能力を統合的・融合的に身に付ける機会がありました。具体的には、交通機関（電車）の制御技術、機械の安全設計機能装備などの応用技術を勉強しながら、自らの研究に取り入れるコースでした。そしてプログラムの一部として第3年目に海外への2週間のインターンシップが課せられて、私はドイツをインターン先として選びました。ドイツは交通機関の制御技術をはじめ、世界トップクラスの安全レベルで社会インフラを支えていますので、すごく興味があり、2014年3月にマゲブルグのOtto-von-Guericke University Magdeburgの「Safety and Hazard Defense」研究室にお世話になりました。

私は9年前に日本に留学できて、海外の経験がある分、渡航前は不安より楽しみが圧倒的でした。英語とドイツ語が得意でないけれども、今まで勉強してきた英語力をチェックしたい気持ちがあったので、ホテルの予約だけを済ませて、交通ルートなどの事前準備はあえてパッチリやりませんでした。フライトがフィンランド経由だったので、フィンランド空港での待機時間にベルリンのホテルへ連絡し、送迎の確認をしましたが、結局自らが

スに乗って行くことになりました。空港からホテルまでたくさんの方に道を訪ねて、2時間弱を使って到着できました。これが一つの思い出の経験となり、語学の勉強にもなりました。

インターンシップ先の研究室ではドイツ以外にヨーロッパ諸国やアジア、アフリカの国からの留学生が大勢いました。研究に関する意見交換や異文化交流を通じて、改めて言語の必要性を強く感じました。

また、短期の滞在中でしたがベルリン、ミュンヘンの観光地を訪れ、ドイツ独特の雰囲気を楽しむことができ、こちらもよい刺激を受けました。

今回のドイツでのインターンシップは、研究・語学の面で勉強になることが多くあり、有意義に過ごすことができました。最後に今回の短期滞在中の機会を与えて頂き、また滞在先の手配にご協力いただいた諸先生方に感謝致します。



ドイツの街かど



Kodai Abe



オーストリア・ウィーンでの
国際学会



電気電子情報工学専攻
修士課程2年（秋田高専出身）

阿部 晃大

学会発表は自分が行ったことのない場所へ行けるいい機会です。発表は大変ですが各地の名産を食べられたり珍しい景色を見られたり楽しみもあります。海外渡航経験がなかった私は、ウィーンに行ってみたくて一心中で研究に打ち込み、その甲斐あって昨年11月にウィーンで行われた国際学会で発表することができました。発表当日はとても緊張しましたが、先生の助けもあり発表・質疑応答を無事に終え、発表後には優秀発表賞を頂くこともできました。

英語で論文を書き、海外へ行き、発表した経験で英語力も向上しました。加えて、学会を通じて刺激を受けて研究・語学学習に対する意欲も上がり、大きく成長できた実感があります。日本にただけでは、ここまで意識が変わる経験

はそうなかったと思うので、思い立って海外へ行った価値が十分ありました。また、街並みが日本とまったく違うのも衝撃的で、建物や風景を直に見られたことは一生物の思い出です。今年は学会発表でアメリカへ行くので、また成長できるよう頑張りたいと思います。

受賞時の
写真



シュテファン大聖堂

国際会議 MORIS2013 で
「Best Poster Award」を受賞して



材料開発工学専攻
修士課程2年（中国出身）

モウ センブン
孟 倩文

2013年12月に埼玉の大宮で行われた国際会議Magnetics and Optical Research International Symposium(MORIS)2013で、「近接場光学顕微鏡の偏光特性」についての研究を発表し「Best Poster Award」を受賞しました。Best Poster Awardは3名しか選出されず、60名もの外国人発表者の中から私が選出された時はとても嬉しかったです。

今回の国際会議では短いプレゼン発表とポスター発表をすべて英語で行いました。発表する前は、自分の英語会話能力についてあまり自信がありませんでしたが、担当教員である石橋先生に国際会議についての心構え等を丁寧に教えていただき、また温かい応援の言葉を頂いたおかげで、発表はスムーズに進みました。先生に「自信を持って、大きい声で発表してください」と言われて、ちょっと緊張してしまいましたが、笑顔で自分の考えを頑張って相手に伝えました。約2時間の発表でちょ

と疲れましたが、聞きに来た人に「素晴らしい研究ですね!!」「面白い!」と言われて大変嬉しかったです。ここに掲載されている写真は私が発表している時の様子です。

今回の国際会議での発表を通して、積極的にコミュニケーションをとること、また相手の立場になって分かりやすく伝えることの大切さを学びました。ツイニングプログラムで長岡技術科学大学に留学に来て、専門知識だけでなく、プレゼン能力とコミュニケーション能力なども身につけることができ、本当によかったです。



ポスター発表の様子

Meng Qianwen



国際学会を通して思考の地平線を広げる



材料工学専攻 博士後期課程2年（マレーシア出身）

ムハマド ヌル ファルハン

2013年、私は複数のすてきな学会に参加する喜びを得ただけではなく、複数の賞を頂くという栄誉も得ました。学会には国際的なもの、国内のもの、地域的なものがあります。ですが、その規模によらず、学会は全て等しく、自分の所属する大学を超えて、同じような興味を持つ人たちと知り合い、友人、知人、そして仲間のネットワークを成長させる素晴らしい機会です。特に国際学会では、私は全世界からやってきた人々とアイデアを交換し、資源を分け合い、議論に参加し、友情を育てる機会を得ました。

我々の仕事や業績が仲間達によって論評され、批判と賞賛の生きたフィードバックを受けるとき、それは私の洞察力を広げ、思考の地平線を広げることを助けてくれます。そしてそれはとても楽しいことであり、win-winの状況であると考えます。私がこれまで毎年参加してきた全ての国際学会が、若い研究者や私のようなPhD候補生の育成に非常に貢献する

プラットフォームであることは紛れもない事実です。

学会中、発表者がみな最先端の研究に携わっているような発表会場に参加すると、他の国で開発中の新しいものについて学ぶことができるし、同時に、現在の情報の豊富な時代、特に私の専門である非破壊検査・評価(NDT&E)の分野において、私に多い経験と知識の爆発を与えます。新しく現れてくるテーマやテクノロジーに対して、我々自身の知識を日々新たに続け、研究のどの方向が成長し、どの方向が消えていくのかを知ることは重要です。

いかなる国際学会であれ、それに参加する機会のある人は、そのチャンスを逃してはいけません! あなたの知識ベースを構築、強化し、あなた自身の才気を押し上げるために、成長するための全ての黄金の瞬間をつかみ、あなたのプロフェッショナルネットワークを準備してください。

MUHAMMAD NUR FARHAN



授賞式にて

BROADENING THE HORIZON OF THOUGHT THROUGH INTERNATIONAL CONFERENCES

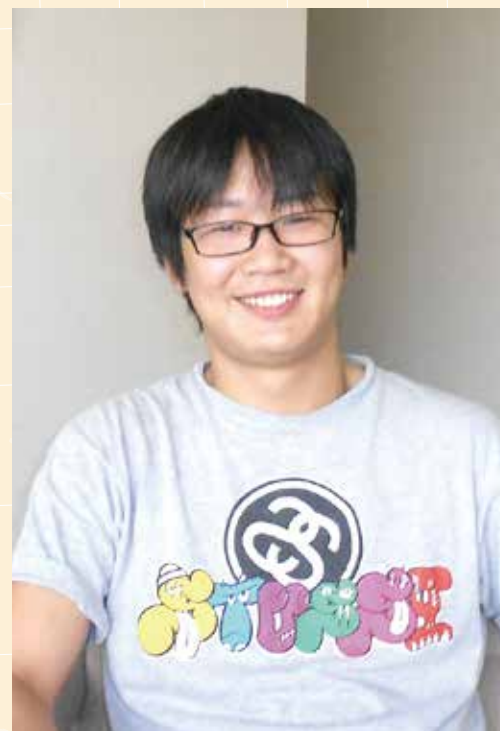
Not only I had pleasure from attending some wonderful conferences in 2013, but also had the honor to receive some awards. Research conferences can be international, national, or regional. However, regardless of geographical scope, they all should be treated as equally excellent opportunities to get to know people with similar interests and to grow a network of friends, acquaintances, and peers beyond our own college or university.

Especially during international conferences, I had the opportunity to exchange ideas, share resources, participate in debates and develop friendships with people from all over the world. I think it is very fun and a win-win situation when our works and achievements are being reviewed by fellow-mates and received live feedbacks of both criticisms and praises which help me to extend my insights and broaden my thinking horizon.

It is an undeniable fact that every international conference that I had participated every year is a very conducive platform to nurture young researchers and PhD candidates such as me. By attending some great presentations during the conference where the presenters shared cutting-edge research, it allows me to learn about the new things that are currently developed in other countries and at the same time, it provides me with a very productive experience and the knowledge explosion in the current information-rich era especially within my area of expertise of non-destructive testing and evaluation (NDT&E). It is a great way to keep ourselves up-to-date and abreast of emerging themes and technology and to understand in which directions of the research are growing and which are disappearing.

For those who have the chance to participate in any international conference, do not miss it! Grab every golden moment to grow and groom your professional network, to build and bolster your knowledge base and to expand and broaden your resources.

Itaru Yamana



海外での経験を経て



アルプス電気株式会社
電気電子工学専攻
2013年度修了（福井高専出身）

山名 達

私は長岡技大に入学後、実務訓練及び短期留学と併せて9ヵ月程度マレーシアに滞在しました。文化や習慣の異なる地での生活は、多くのことを学ぶことが出来ました。特に、英語に関しては、行った当初は全く話せませんでしたが、積極的に多くの人と会話することで上達したと実感することができました。そこで、さらに英語に触れる機会が欲しいと思い、国際学会へ参加してみたいと考えました。しかし、予稿や発表資料はフォーマルな英語を必要とするため、英会話とは異なり苦労しました。また、発表時にも先生や先輩方に助けていただきながら、無事に参加することができ、ポスター賞及び電気科学技術奨励

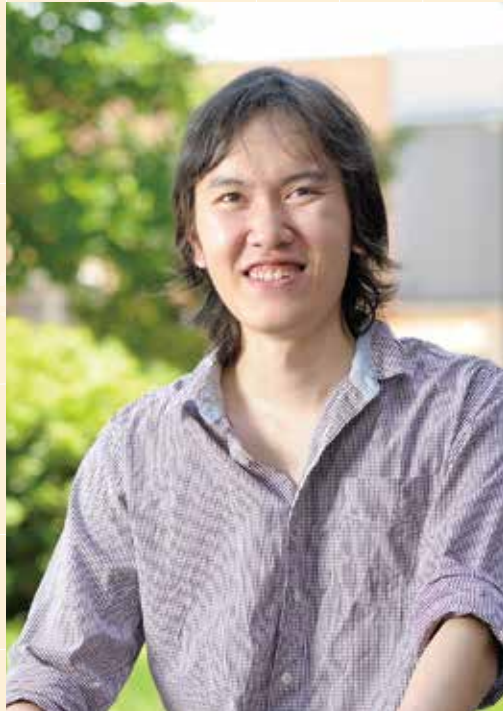
学生賞と二つの賞をいただきました。大変なことも多々ありましたが、自分の研究を認めていただけ、非常に嬉しかったです。また、様々なことに対して積極的に挑戦していくことの大事さを学ぶことが出来ました。この経験を活かし近い将来、様々な国で働きたいと考えています。



留学先の研究室メンバーと



NGUYEN TRUNG HIEU



ツイニングプログラムは大きなチャンス



機械創造工学課程 4 年
(ベトナム出身)

グエン チュン ヒュー

ツイニングプログラムとは、留学生が母国の大学と長岡技術科学大学で学部課程を修了し、両方の学位を取得するものです。前半の2年半の間は、母国で専門科目と日本語を勉強します。入学試験に合格すると後半の2年間は日本に留学することができます。

このプログラムでは専門科目と共に日本語の勉強を行うため、通常のプログラムと比べて約2年もの時間を節約することができます。さらに、母国においても、日本人教師の集中講義を受けるチャンスがあります。集中講義では日本語で基本的

な専門知識や日本での考え方、勉強方法を学ぶため、日本での勉強に素早く慣れることができます。そのため、日本に来たら早く溶け込み、楽しんで研究や勉強を行ったり、生活を送ることができます。もちろん楽しいだけではなく、言葉や生活習慣の違いなど困難なことも多くあります。前半に行われる母国での勉強も非常に大変であり、後半は日本の学生と同じように勉強します。しかし、それらの困難にチャレンジすることは、自分を成長させる上でとても大きなチャンスだと思っています。

日本での私の体験



経営情報システム工学専攻 修士課程 1 年 (メキシコ出身)

レジェス メンデス ホセ ルイス

4 年前メキシコのモンテレイ大学と長岡技術科学大学の「ツイニングプログラム」の参加者になりました。2 年間で日本語と専門の勉強をして、日本に来ることができるように頑張りました。その間に苦労が沢山あって、諦めてしまいたい時もありましたが、一生懸命頑張りました。そして、2012 年に私の日本冒険が始まりました。長岡技術科学大学に編入したとき日本の勉強と日本の生活に慣れなければなりませんでした。授業は全部日本語で行われ、毎回の資料を通訳する必要がありました。家族とメキシコと日本の先生方、そして友達の応援がなければ、今まで進むことができなかったと思います。でも、苦労だけではなく、楽しかった時間もたくさん過ごしました。日本人の友達や留学生の友達といういろいろな遊びに行ったり、話したりしました。ボーリング、技大祭、スポーツ大会、パー

ティなどのイベントに参加して、楽しい時間を過ごすと共に異文化にふれあうことができました。長岡技術科学大学は本当に世界の人々と交流できる場所です。今年は経営情報システム工学専攻修士課程の1年生になり、これからまだ多様な勉強や体験が待ち構えています。誰かに「なぜ諦めなかったか」と問われると自分の体験から、「日本で学べるのがたくさんあるから」と答えます。



REYES MENDEZ JOSE LUIS



留学は自分の生涯の宝物



建設工学専攻 修士課程 1 年 (メキシコ出身)

ガリシア・ガルシア・ダビッド

母国メキシコで大学に入学した時に、日本へ留学を前提にしたツイニングプログラムの説明会に参加しました。日本人の先生から話を聞き、長岡技術科学大学の概要など教えてもらいました。興味があって、入りたかった建設構造研究室の研究テーマについてよく調べたところ、私が研究したいテーマに近いことが分かりました。また、将来日本で就職してみたいと思っていたので、就職状況についても調べ、2009 年から現在まで建設分野の就職率は100%であることを知りました。長岡技術科学大学こそが私の希望を満たしてくれる大学だと確信し、日本留学にチャレンジし

ようと決めました。

ゼロから友達をつくり、さらに別の言語で専門分野について学ぶことはかなり大変でしたが、充実した環境の中で勉強を進められ、優れた技術を学んでいます。日本人との交流を通じ、文化や習慣、日本人の精神を学び、同時に日本人のみならず、他国からの留学生が多いので国際理解を深め、視野を広げることができました。楽しい時間や価値がある経験は何倍にもなりました。留学したことによって、自信や積極性を高め、人間的に大きく成長できたと思います。

Galicia Garcia David



YANG WENJING



鄭州大学から TP で
長岡技術科学大学へ！



材料開発工学専攻
修士課程 2 年 (中国出身)

ヨウ ブンセイ
楊 文静

2007 年、中国の鄭州大学と長岡技術科学大学はツイニングプログラム (TP) という共同教育を設立しました。これは鄭州大学で3年間、長岡技術科学大学で2年間勉強し、学部を卒業するプログラムです。

日本の文化、最先端技術力は世界に多大な影響を与えています。長岡技術科学大学は、実践的・創造的能力を備えた技術者の養成という社会的ニーズに応えるため、実践的な技術開発を行う工学系の大学です。私はこの大学で勉強したいと思いました。

TP の特徴は2つあると思います。
1. 専門知識の勉強: 研究室に配属される時期が速いため、興味が深い分野に対して、他の学生より早く実験、ゼミ等を学べます。私たちはそれぞれ違う

分野の勉強をし、お互いに交流することで、知識の関連性を見つけました。また、学会に向け挑戦する機会が多かったです。

2. 共同教育: 中国の論理的な教育と日本の実践的・創造的教育制度を合わせて、グローバルな人材を育成します。語学に対して、日本語はもちろん、英語も強化しています。また、日本人が中国に興味を持ち、中国語、中国文化を学ぶことに繋がっていました。

来日して4年、学生時代を終えます。新しい生活、友達ができました。ユニークな考え方、チャレンジ精神を身につけました。長岡で経験した全てのことは貴重な経験、そして大切な思い出になっています。

ツイニング(留学生)プログラム



Nguyen Le Trong Nhan



ツイニングプログラムで体験したこと



建設工学専攻 修士課程 2 年 (ベトナム出身)

グエンレチョンニャン

2011 年から日本留学しているツイニングプログラム(TP)の留学生です。長岡技術科学大学の独特な長期間の実務訓練制度に惹かれて、長岡技術科学大学に編入を決めました。日本に来る前、現地の大学でわずか2年間しか日本語を勉強できませんでした。日本語能力が低い私にとって入学してから他の日本人学生と一緒に授業を受けることは、自分だけではなく、TPの留学生全員にとって、とても大変なことだと思います。また、新しい環境に慣れる余裕もなく、遅れを取らないように毎日一生懸命頑張ったのは、このTPの辛さですが、この環境の中に知識がどんどん増えて、自分の成長を感じました。そして、4年のとき、私たちTPの留学生は区別なく日本人学生と共に日本企業における約5ヶ月間の実務訓練に参加で

きました。当時私は専門知識も日本社会常識もとても足りませんでした。そして何よりも日本語力の不足は私にとって最大の悩みでした。しかし困難を乗り越え、日本語から専門知識、ビジネスマナー、人間関係まで様々なことを習得でき、この5ヶ月は私にとって貴重な機会でした。実務訓練のような長岡技科大でしか体験できないことがたくさんあると思いますので、是非Welcome to NUT everybody。



実務訓練先の社員の家族との野外活動交流会

私を変えたツイニングプログラム



材料工学専攻 博士後期課程 1 年 (ベトナム出身)

フィンタンミンチット

ホーチミン市工科大学の電気電子工学課程に入学してから、先進技術を有する日本に留学することが夢でした。日本語が難しいという問題をはじめとして、日本留学には様々な悩みがありました。ホーチミン市工科大学とのツイニングプログラムでは、日本留学の前に2.5年ベトナムで専門と日本語を同時に学びました。このプログラムを通じて、日本留学の夢が実現できました。2010年3月に来日し、日本での留学生活が始まりました。編入当初は、数多くの問題がありましたが、前半教育で日本語及び日本文化を学んだおかげで、比較的早い時期に日本人学生と同じように勉強できるようになりました。技術開発に注力する長岡技大には、最先端の実験装置及び研究資料が豊富にあり、また、国内及び海外で実務訓練を5か月受けることができます。素

晴らしい教育制度だけでなく、様々な国からの学生と研究者に出会えるという国際的な環境で、世界レベルの技術も学ぶチャンスができ、友達も多くできました。

4年の月日を通し、様々な場面で成長し、異文化を理解できるようになりました。将来は国際的な技術者になり、日越技術交流の分野でリーダーシップを取る人材になりたいという夢を持っています。



ベトナム人学生と日系企業との交流会



Jenesys program 学生と交流会

HUYNH TAN MINH TRIET

シリーズ 全国高専めぐり

第十四回 沼津工業高等専門学校

7 年一貫の創造的技術者教育

沼津工業高等専門学校 校長 柳下 福蔵
Hukuzo Yagishita

沼津高専は、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念として、静岡県東部に唯一の工科系高等教育機関の使命を果たしてまいりました。平成24年の創立50周年を機に、産業構造の変化に対応した新たな教育課程を作成して7年一貫の技術者教育を開始しました。

学科別に入学した1年生は1年間だけ混合学級で専門5学科全ての実験・実習を体験し、2年生になると一般科目教員も含む全教員が各々2~3名の学生を指導する「ミニ研究」を体験して成果を発表し、3・4・5年生は所属学科の基幹科目と並行して学際3分野(環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉)の中の1分野を選択して修得します。

平成26年度から、改編した認定専攻科「総合システム工学専攻(環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース)」は本科の学際3分野の教育を深化して融合・複合領域の実践的・創造的技術者を

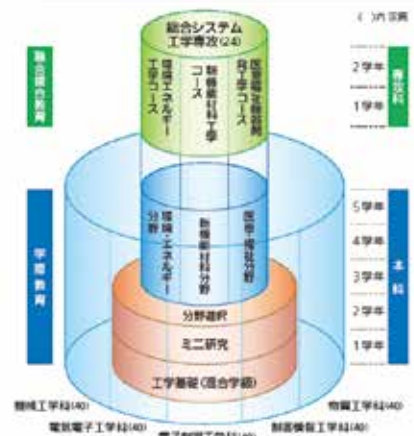


創立 50 周年記念モニュメント「成長の芽」

育成します。特に、医療福祉機器開発工学コースは静岡県のファルマバレープロジェクトの人材育成を担うものであり、全国高専の本科修了生にも門戸を開いています。専攻科1年生後期4ヶ月間の長期学外実習には、企業のみならず大学・大学院を希望する学生もあり、技術科学大学との連携が実質化できるものと期待しています。



本科の学際教育を深化する専攻科3コース



7 年一貫の新教育課程

沼津高専 URL <http://numazu-ct.ac.jp>

沼津高専から長岡技大へ

Opportunities don't happen, you create them. by Chris Grosser



機械創造工学課程 3 年
ムハマドシャフィク
ビンブラヒム
MUHAMAD SYAFIQ BIN BERAHIM
沼津高専 機械工学科
平成 26 年 3 月卒業

沼津高専では近年、国際交流が盛んです。毎年9月の高専祭では留学生のブースが設けられ、学生だけではなく保護者や近所の方に各国の紹介や文化の違いなどを伝える機会が持てました。今、自分が自立できているのは高専での寮生活の良い経験があったからだと思います。沼津高専は長岡技大と連携が深く、私は長岡技大に進学することを決心しました。

長岡技大では各国の留学生がいて、日本人だけではなく留学生同士も交流ができます。また、サークル活動が豊富にあることも大学の一つの特徴です。私

は今年の夏、初めて長岡まつり、花火大会などに参加しました。留学生だけではなく自分の可能性にチャレンジしたい日本人の学生にも、長岡技大に進学することをお勧めします。



2014 年の長岡まつり花火大会

動き出した巨大クラウド GI-net

「世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者の育成」を目的として、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構の三機関が連携・協働した教育改革事業（文部科学省の国立大学改革強化推進事業）が推進されています。それを推進するインフラが、この4月から稼働した両技科大及び国立高専の全59拠点を結ぶ遠隔講義・会議システム「Global Innovation Network System (GI-net)」です。

このシステムは、通信事業者が提供するクラウド型IPテレビ会議多地点接続網です。光回線やADSL回線等を介して多数の拠点を多地点接続装置（MCU）で接続し、1 Mbpsの高速相互通信を実現します。さら

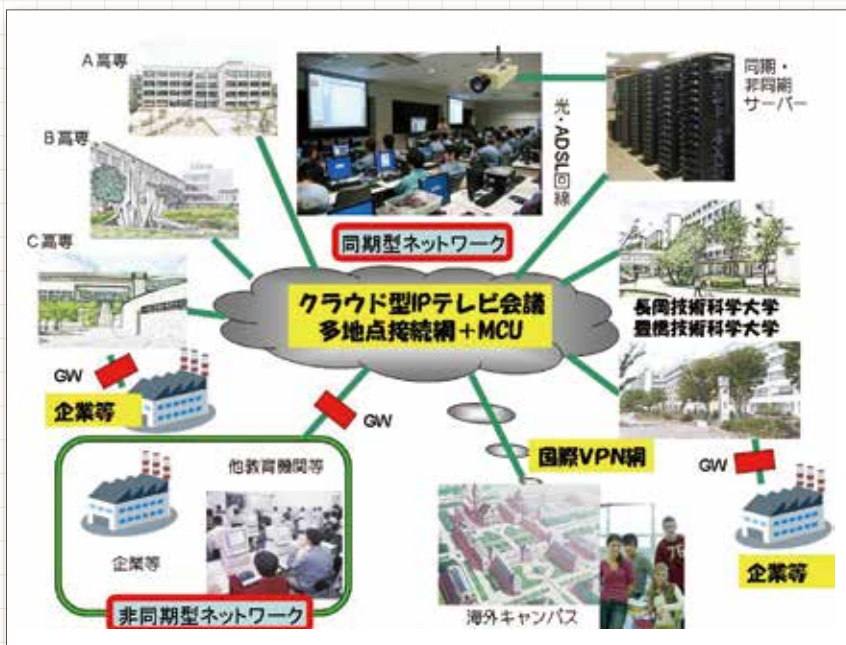
にミーティングプラザゲートウェイ（GW）サービスを利用すれば、59拠点以外の外部拠点からインターネットを介してMCUに接続することも可能です。

GI-netを利用することで教育改革にかかる人の流れを根本から変えて、新たな教育・知の集積への進化を狙います。たとえば安定したハイビジョン映像のやり取りが可能で、臨場感にあふれた映像を武器に、人々がある一か所に集めなければならない従来のやり方を駆逐できます。活用シーンとしては、遠隔授業・合同ゼミ、シンポジウム・講演、さらには事業を推進するためのクラウド会議が挙げられます。各地の優れた教員による講義を全国の学生が共有でき、世界のトップレベルの識者による講演

もリアルタイムで聴講でき、聴講後に全国の学生がアクティブにディスカッションする環境も整いました。さらに、このような巨大事業を進化するための素早い意思決定もクラウド会議で実現できました。

GWを活用すれば全国の地場産業の企業からの直接的な技術相談を全国の高専・技科大教員で分担して受けることができ、海外キャンパスを通じて国外の大学とも相互に講義を提供しあうことも可能です。

このインフラを使って進化するのは、われわれ自身です。誰もがマネすることのできない教育・知の集積を全員体制で実現しようではありませんか。



巨大クラウドGI-netシステムの模式図



▲▼GI-net 開通式の様子



三機関連携・協働教育改革実施体制

三機関が連携・協働した教育改革事業においてイノベーション産学官融合キャンパス構想検討部会を取りまとめている。国立高等専門学校機構幹事として全国の国立高専をまわった経験より、クラウド型IP多地点接続網の必要性を強く感じていました。

副学長
物質・材料系 教授

斎藤 秀俊
Hidetoshi Saitoh



私の抱負

新任の先生を紹介します。

MAKOTO ICHITSUBO

今！ このとき！！

教育開発系 教授

市坪 誠

長岡技術科学大学とは、「学生を第一に教育・研究の質を重視し、成長を呼ぶガバナンスにより変革と進化を加速させる大学」です。「主役である学生が、自主・自律性を高め、卒業後も成長できる」、そんな支援に携わりたく、2014年7月、着任致しました。

“成長したい！ 本物に！
だから、この大学に来ました！”

この言葉に代表される学生諸君と向き合い、ステークホルダーである保護者や企業、日本国、長岡市、高専からの声に真摯に取り組むことで、具体のアクティビティを達成します。「学生の成長」という到達目標、これを実現できる大学で

あれば、学生の自信・愛校心に火が付く、それが教職員の職場への自負心、ステークホルダーからの信任、入学を望む子供たちの信頼という大きな炎となつて、その火勢は国内はもとより世界へと伝播するのです。

“本学は、10年後、世界で、
どれだけ進歩していますか？”

今こそ、この問いに答えるチャンスです。世界で活躍できる「グローバルイノベーションリーダー」育成のため、学生と教職員とが自助と互助、扶助により、大学教育の質保証（可視化）を達成したいと思います。

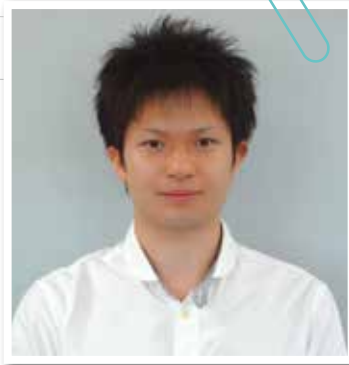


本学の動き

（平成26年6月～8月）

- 5月28日 実務訓練シンポジウムを開催
- 5月29日 多賀谷基博助教が高分子研究奨励賞を受賞しました
- 6月1日 NHK大学ロボコン2014で準優勝
- 6月21日 名誉博士号授与式を挙行了しました
- 6月20日～22日 「技学（GIGAKU）」を世界の共通語にとの思いを込めて、また、長岡地域の国際化を目的とした「第3回国際技学カンファレンス（The 3rd International GIGAKU Conference）」を開催しました。第3回となる今回は海外11ヶ国44名を含む370名の方に参加いただきました。
- 7月4日 地元懇和会（深才地区）を開催しました
- 7月30日 原子力安全・システム安全棟竣工記念式典を開催しました
- 8月1日 長岡まつり「大民踊流し」に参加しました



キンボール
サークル機械創造工学専攻
修士課程 2 年（群馬高専出身）キンボールサークル 代表
小林 佑介
Yusuke Kobayashi

朱鷺の舞う国からオムニキン

キンボールとは

キンボールは1986年にカナダで生まれ、1997年に日本で普及しました。最大の特徴は直径約120cm、重さ1kgのボールを使うことです。キンボールは室内競技であり、20m×20mのコートの中でプレーします。1チーム4名で3チーム同時にプレーします。3チームのゼッケンはピンク、ブラック、グレーを使用します。キンボールはヒットやレシーブを繰り返すゲームです。ヒットは

3人がボールを支え1人がボールを手や腕で打撃します。ヒットの前に必ず「オムニキン+レシーブチームのカラー」を言ってレシーブチームを指定します。ヒットされたボールは指定された色のチームが床に落ちる前にレシーブします。レシーブに失敗すると失敗したチーム以外の2チームに得点加わります。ゲーム時間は1ピリオド7分の2ピリオドマッチで、総得点を競います。



ゲームの流れ

キンボールサークル
活動紹介

キンボールサークルは総勢20名で活動しています。週3回、技大内や地域の小学校の体育館で練習を行なっています。練習では地元の小学生・中学生・高校生と共に、大会で優勝することを目標に日々切磋琢磨しています。現在は12月に神戸市で開催されるジャパンオープンに向けて猛練習をしています。その他にキンボールの普及のために、小学生やスポーツ推進委員で行なわれる体験会の

サポートもしています。さらに、石川の金城大学や千葉の国際武道大学との合同練習も行なうなど、地域・他大学との交流も盛んに行なっています。今年の8月はフランス代表のチームと同じ大会に参加し、世界のレベルを肌で感じる事が出来ました。大会の実績としては、昨年はスポーツフェスティバルや石川オープンといった大会で優勝という好成績を収めました。



石川オープンでの試合の様子

今後の予定

11月は石川県で開催される日本海カップに参加します。そして、12月にはジャパンオープンという日本で最も大きな大会があります。他にも、冬季には長岡開催の朱鷺カップや雪しかキンボール大会、東京ではあらかわ杯があり、県内外で数多くの大会に参加します。技大の体育館で月曜日は19時～22時、水曜日は20時～22時に練習をしています。新入部員大歓迎です。



キンボールサークルのメンバー

Street
Style材料開発工学課程 4 年
(旭川高専出身)Street Style 代表
高畑 隼汰
(写真右)
Hayata Takahata

Street Style の活動と今後

私たちStreet Styleはダンス、ジャグリング、フリースタイルフットボール&バスケットなどを行うパフォーマンスサークルとして日々みんなで楽しく賑やかに練習しています。日々の練習の成果は主に技大祭や様々な地域で開催されるイベントで披露しています。その参加するイベントは長岡だけに留まらず上越や新潟市さらには県外にまで足を運んでいます。これらのパフォーマンスもどのようにしたらお客さんに楽しんでもらえるかをよく考え、その時のイベントの雰囲気、会場にあったパフォーマンスを行うようにしています。また、みんなでイベントに参加する以外にも様々な場所で開催されているダンスバトルにも出場し技術の向上やモチベーションアップをはかっています。これ以外にも定期的にサークルのメンバーで技術を競い合うためにバトルを開催しています。

今年になってStreet Styleは新入生が20人以上も入り大型サークルになり

ました。その中には経験者も含まれており新入生のレベルアップも目まぐるしいものとなっています。そして人数が増えたことによって今まで以上にパフォーマンスの幅が広がり新しい可能性がたくさん見えてきています。

また、最近では他大学のダンスサークルとの交流も行っており、お互いの練習場所と一緒に練習し新しいことを教わったり、他大学のイベントに参加するなど学外でのつながりを作り今後のサークルの繁栄につなげていこうと思っています。

今後の予定としては10月に長岡看護福祉専門学校の学祭である若葉祭に参加し、その他さまざまなイベントに参加していく予定となっています。その時は私たち学部4年生が実務訓練に行ってしまうため今後は3年生が主体となってStreet Styleを動かしていってもらいます。その時にも最高のパフォーマンスを提供できるようにみんなで力を合わせて頑張ってもらいたいです。



上越教育大との共同練習



アクロスプラザイベント



2013技大祭



学生☆の活躍☆

長岡酒の陣～朱陣～を終えて

建設工学課程 4 年（秋田高専出身）

しゅがく代表 **後藤 新**
Arata Goto

「朱陣」と題するこのイベントは、全国から集まる技大の若者を中心に、20代の若い男女に長岡の地酒を知ってもらおうというコンセプトで行っており、今年で6回目の開催となります。当日来場数は170名、運営スタッフと参加していただいた14歳の酒蔵さんを合わせると200名近い人が会場に集まりました。「朱陣」では入場料と引き換えに20枚の回数券をお渡しし、それと引き換えに各蔵2～4本の試飲用日本酒を試飲できます。試飲はその場で蔵の方からお猪一杯分の日本酒を頂くという立ち飲み形式で行いました。

当日は悠久太鼓愛好会「つるかめ会」の呼び込み太鼓の演奏により

景気よくスタートし、各銘酒の名前が入った色とりどりののぼりが掲げられた会場で、法被をまとった酒造会社の担当者の方々より説明を受けながら盃を傾け、銘酒の数々に舌鼓をうつつつ談笑する学生たちの姿が所々で見受けられました。

私はこの「朱陣」の企画・運営を行ってきましたが、多くの部員、友達の協力・サポートがあったおかげでイベントを成功に導くことができました。「朱陣」の運営に携わってくれた部員の皆さん、参加していただいた酒蔵様、いつもお世話になっておりますおぐま様にこの場を借りて御礼申し上げます。



酒蔵さんとの交流



場内風景



重要なのはチーム力!!

機械創造工学課程 4 年（高知高専出身）

2014 年度長岡ロボコンプロジェクト プロジェクトリーダー **高橋 秀樹**
Hideki Takahashi

こんにちは、2014年度長岡ロボコンプロジェクトのプロジェクトリーダー 高橋です。我々長岡ロボコンプロジェクトは毎年6月上旬頃に開催されるNHK大学ロボコンとその世界大会にあたるABUロボコンでの優勝を目標としてロボットを製作しています。私の参加した2014年度大会では国内で決勝戦まで勝ち進んだのですが、悔しいことに準優勝となりました。長岡技術科学大学は2011年度から国内大会で準優勝2回、ベスト4が2回と近年かなり力をつけてきました。この理由は『チーム力』であると私は思います。確かにロボコンに出場する上ではある程度の強いロボットを製作する必要があります。しかし、いくら良いロボットが出

来てもそれを操縦するのも、整備するのも人間であり、チームである以上、チームが纏まっていないと大会では勝てません。そこで我々長岡ロボコンプロジェクトではメンバーで様々なイベントを設けて、メンバー同士の親睦を深めていきました。より信頼感を深めた結果が準優勝に繋がったのだと私は考えます。

恐らく社会に出ると自分一人で行くことはほとんど無いと思います。だからこそ仲間を信じて、頼ることや頼られることの出来る『チーム力』が重要であるとロボコンを通して改めて感じました。

皆さんも是非周りの仲間を信頼して様々なことにチャレンジしてください。



2014年度大会風景



応援団

皆でたこ焼き&鍋

追悼 故 岡田宏文先生



残念です、岡田先生とのお別れ

下村 雅人
生物系・系長

本学生物系の岡田宏文先生は平成26年6月20日に脳出血のために倒れられ、8月3日に入院中の病院でお亡くなりになりました。満55歳の若さでした。お見舞いのたびに快復をお祈りいたしましたが、薬石効なく、永遠のお別れとなってしまいました。

岡田先生は平成3年8月に本学助手として着任され、平成5年11月に助教授、平成24年6月には教授に昇任されました。先生はセルロース加水分解酵素であるセルラーゼの研究に取り組んで来られ、植物系バイオマスの糖化、さらにはバイオエタノール生産への応用に関して、高専の先生方との共同研究にも積極的でありました。今年度の高専の先生方との交流集会は、岡田先生が中心となって、共同研究を通して連携を一層深めるべく計画されましたが、先生の入院はその直後のことでした。予定どおり8月18日、19日の両日に交流集회가開催され、盛会のうちに終えることができたことは、先生の時宜を得た企画によるものと感謝しております。また、岡田先生は昨年度から入学試験委員会の委員を務められ、生物機能工学課程3年次への編入試の改革を実現されました。専門科目の選択拡大によって本課程の全学科対応がより明確になったことは先生のご尽力によるものです。

ますますのご活躍が期待される岡田先生を失ったことは、誠に残念で、悔しくなりません。ご冥福をお祈りするとともに、今後は少し遠いところから我々の教育・研究を見守っていただくことをお願いいたします。

発酵の街・長岡での研究人生

小笠原 渉
生物系・准教授

岡田宏文先生との付き合いは、24年にもおよびます。森川研究室(酵素工學研究室)において、森川教授(現名誉教授)、岡田助手としての新体制が開始いたしました。生物系1期生の6名のみの小さな研究室としてスタートし、装置、研究費の無い、大変な時期だったと思います。当時は、PCはWindowsが主流の時代でしたが、バイオ分野はMacを好んで使っておりました。Macがカラーになる前の時代で、夜中まで研究をしながら、PC雑誌をみながら、新型のMacのあの機種が良い、メモリーはいくつまで買えるなど、岡田先生と話した記憶を思い出します。研究費が少なかったことから、遺伝子解析をするために、森川先生、岡田先生が、交互に自費でMacを買ってくれたことは、いま考えると学生を子供と同じように育ててくれたのだと感じます。森川研究室は、その後、岡田研究室(微生物生理機能工學研究室)と小笠原研究室(生物資源工學研究室)の2つのラボとして、生物系の微生物分野で新たな展開をみせておりました。学会では、岡田先生はセルロース分解酵素解析のスペシャリスト、小笠原は糸状菌(カビ)開発のスペシャリストと言われ、2つの分野で強みを見せておりました。その研究分野において、NEDOの大型プロジェクトを5年間行い、世界最高レベルの酵素開発に成功してきました。昨年度より、第二期NEDOプロジェクトが4年計画で開始したところであります。この大型プロジェクトに関与する他研究機関のメンバーからも、岡田先生を失ったことはその悲しみのみならず、関連研究分野において大きな損失であると言われております。苦楽を共にした岡田先生の教官室のドアが閉まる音を聞くと、いますぐにこの部屋にノックしてくると思う時があります。暖かい静岡県出身の岡田先生は、いつも雪が降ると文句を言っていました。雪が降るとなんとなく、うれしそうにはしゃいでいるようにみえました。発酵の街・長岡で、研究ができたことは、きっと心地よく、嬉しかったのだと思っています。この長岡で、岡田先生の研究してきたことは、かならず次の時代に繋がっていくと強く思っています。

行事報告

オープンキャンパス

8月9日(土)に開催したオープンキャンパスには、高校生、高専生を中心として、県内外から992名の皆様からご参加いただきました。

今年度は、67か所の研究室による公開研究室見学、本学修了生による「OB/OGによる就職説明」や学生による各課程の紹介、入試・授業・学生生活・就職状況等に関する個別相談会、在学生による相談・質問コーナー、学生宿舎(男子宿舎)・国際学生宿舎(女子宿舎)見学ツアー等が行われました。

公開研究室見学では各研究室が行っている最先端の研究を教員や在学生がわかりやすく解説し、参加者は、それぞれ興味・関心のある研究室を訪ね、熱心に説明を聞き、積極的に質問をしていました。

また、オープンキャンパス参加者を対象に行ったアンケートでは、以下のような感想が寄せられました。

今回参加できなかった方でも、見学のご希望があれば土日・祝日を除き可能な限り対応させていただきます。



◀▲新原皓一学長の挨拶

＜オープンキャンパスの感想＞

● 学校の広さや雰囲気を肌で感じ、先輩達の生の声が聞けることはとても貴重だった。先輩達には声もかけやすく、とても優しくわかりやすく教えてくれた。恵まれた施設での学習に憧れ、改めてこの大学に進みたいと思った。

● 先輩の話聞くことができ、大学選びの参考になった。

● 在学生がとても丁寧・親切で助かった。

● 学生スタッフの対応が良く、大学全体の印象も良く感じられた。

● 即実践に繋がる研究テーマばかりで、正直驚き、素晴らしいと思った。学生も皆素直で、一生懸命さが非常に印象に残った。

● OB/OGによる就職説明がとてもわかりやすく、大学の良さを説明してくれてよかった。学生による各課程の紹介も、体験談と併せて話してくれたので参考になった。

● オープンキャンパスガイドの研究内容が面白く、どれも興味をひかれるような内容だった。

● とても面白く、何よりも先輩たちが気軽に相談を聞いてくれたのでとても助かった。

● 大学の中が広く、自分がどこにいるのか分からなくなったりもしましたが、自分の見たかった課程の一部を見ることができた。大学の方は皆やさしく教えてくれたので楽しく見学することができた。

■ お問い合わせ／学務部入試課入学試験第2係 TEL0258-47-9258 e-mail:nkoho@jcom.nagaokaut.ac.jp



▲テクノミュージアム



▲在学生による相談・質問コーナー



▲OB/OGによる就職説明



▲公開研究室

編集後記

お暑うございます(これを書いているのは8月)。蒸し暑い夜にはエアコンを切って窓を開けてよく冷えたトル・グラスのカクテルを片手に汗をかきながらリムスキー＝コルサコフのシェエラザードを聴くのが真夏の夜の楽しみ方というものです。国際化!などと力み返るのはもう過去のことなのでしょう。本学を見回せばそこら中に外国人(とつくにびと)がいて、かなりの割合の学生が海外(学会や実務訓練)を経験しています。これからは、どれだけ本学の学生の成長に効率よく寄与するか、量より質の時代かもしれません。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality,Originality,Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.183 [平成26年9月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010 (企画・広報室)

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。